

「居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査」の分析結果

——移動理由と価値観から住民の特徴を捉える——

西田 祐志郎

せたがや自治政策研究所研究員

〔概要〕

「世田谷区の地域特性の析出 2023」(大石・田中 2023)では、住民基本台帳データと、2024 年 3 月に実施したインターネット調査である「居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査」(以下ウェブ調査という)の回答を元に世田谷区の社会増減について分析した。

本稿では、ウェブ調査の回答を用いて、大石・田中(2023)では触れられていない住民の移動理由や価値観の傾向を捉え、転入者・転出者それぞれどのような特徴があるのかをより深く分析することを目的とした。

ウェブ調査の回答結果より、住民は「仕事都合」「結婚」「住宅購入」などのライフイベントを移動のきっかけとし、「勤務先の交通の便の良さ」「親や子、親族などが近くにいるから」という理由で今の居住地を選択している傾向がみられた。また、転入者・転出者それぞれから見る世田谷区に対する満足感について、住民が定住または転出を考える要因の一つと考えて分析材料に据えたが、世田谷区の方が良かった点においては回答のほとんどが交通の利便性に関する選択肢に収束した。不満点においても、転出者の「不満点は特にない」が圧倒的に多く、次いで「物価」「家賃や住宅の価格」が上位を占めた。

最後に、回答者の価値観を問う設問を用いて因子分析を行い、転入者・転出者それぞれの価値観を 3 つのタイプに分けるとともに、因子分析で得られた因子得点を用いて、年齢・性別・世帯構成を要因にとった多元配置分散分析を行い、価値観の度合いに意味ある差がみられるかどうかを調べた。

1. はじめに

1.1 本稿の目的と構成

「世田谷区の地域特性の析出 2023」(大石・田中 2023)では、住民基本台帳データと、2024 年 3 月に実施したインターネット調査である「居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査」の回答を元に世田谷区の社会増減について分析した結果、最も移動が流動的なのは 20 代、30 代であり、仕事都合や結婚、住宅購入などの理由により転出し、広い住宅を求めて値ごろ感のある郊外に転出していく層と、利便性を求めて特別区内に転出していく層があることを示唆した。本稿では、ウェブ調査の回答を用いて、大石・田中(2023)では触

れられていない住民¹の移動理由や価値観の傾向を捉え、転入者・転出者それぞれどのような特徴があるのかをより深く分析することを目的とする。

このウェブ調査は、住民の「住居の選好と、コロナ禍を経て変容した価値観や区政、地域コミュニティへの関わり方など地域社会への意識との関係を明らかにすること」(p.55)を目的とし、住民基本台帳データだけでは明らかにできない質的な情報を得るべく実施された。また、転出者に対しても調査可能というインターネット調査のメリットを生かして、転入者・転出者の比較をしながら分析する。

本稿の構成として、1.では分析に用いるデータの基礎情報について説明する。2.では、ウェブ調査の設問から、転入者・転出者それぞれの引っ越しきっかけとなった理由、現住所を選んだ理由を回答数が多い順に並べ、世帯構成別にクロス集計をして傾向を捉える。なお、属性の軸を世帯構成にした理由は、1.3.2にて後述する。3.では、転入者・転出者それぞれが持つ世田谷区に対する満足感を比較し、4.では、転入者・転出者それぞれの価値観に関する設問を用いて価値観をタイプ分けし、年齢や性別などの属性ごとに特徴がみられるか分析を行う。最後に、これらの分析の総括として、ウェブ調査から言えること・言えないことの明確化、分析する際に感じた調査設計への言及と今後の調査への活かし方について述べる。なお、本稿の構成を、図1-1、1-2の通り図解して示している。

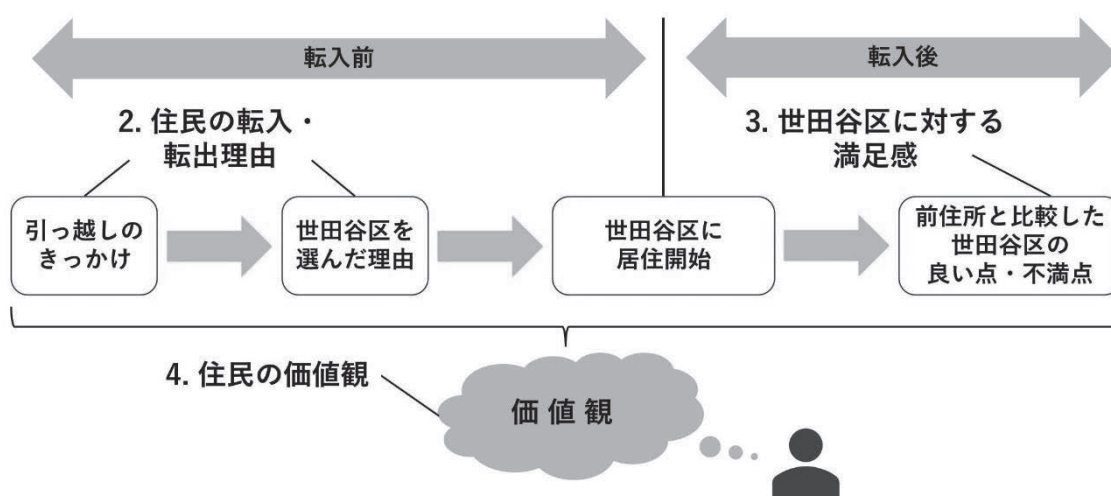


図1-1 転入者に関する分析の位置付けと本稿の構成

¹ 本稿では、ウェブ調査のサンプルである転入者・転出者の総称として「住民」としているにすぎないため、住民登録の有無について確認しているものではない。

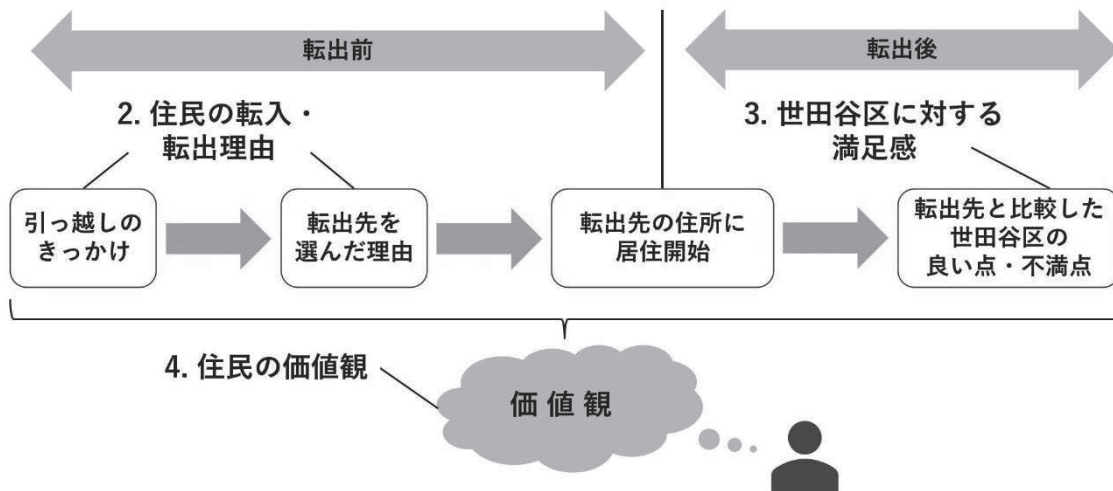


図 1-2 転出者に関する分析の位置付けと本稿の構成

1.2 分析に用いるデータ

今回の分析に用いたウェブ調査の概要、サンプル構成は以下の通りである。

表1 居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査 調査概要

項目	内容
案件名	居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査
調査目的	Web 調査より住居の選好と、コロナ禍を経て変容した価値観や区政、地域コミュニティへの関わり方など地域社会への意識との関係を明らかにすることを目的とする。
調査方法	インターネットを活用したモニター調査 一次調査で調査対象者を抽出(※1)し二次調査でアンケートを実施(※2)。 ※1:東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に住んでいる 20 歳以上の男女から 50,000 サンプルを無作為抽出し、5 問程度のアンケートを実施。 ※2:一次調査 50,000 サンプルの回答者より条件合致者を抽出し、そのサンプルから無作為抽出した対象に二次調査を実施。
調査対象者 (サンプル数)	上記方法を経た最終的な調査対象は、以下の状況にある 3500 名。 ※①世田谷区在住の過去に転入してきた 20 歳以上の区民 500 名 ※②かつて世田谷区に住んでいた 20 歳以上の 3000 名 ・特別区在住者 500 名 ・都内市町村在住者 500 名 ・川崎市在住者 500 名

	・横浜市在住者 500 名 ・その他神奈川県在住者 500 名 ・上記以外の区市町村在住者 500 名
調査実施日時	2024 年 3 月 6 日(水)～11 日(月)

出典：居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査 調査報告書 p,3 より一部抜粋して作成
 ※このサンプルのうち、本稿では表 1 の①を転入者、②を転出者と呼称し、分析を行う。

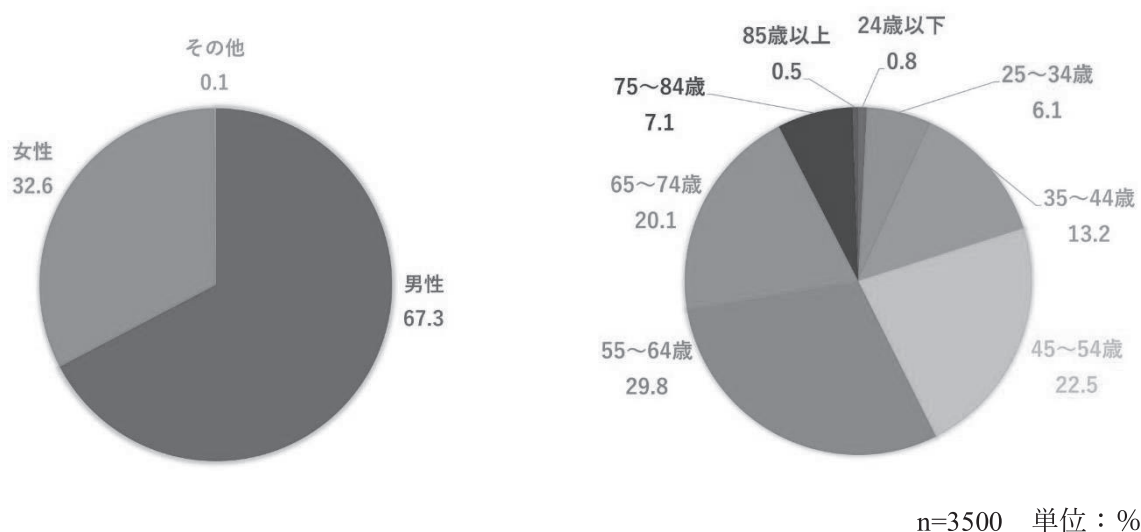


図 2 居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査 サンプル構成（左：性別、右：年齢）

1.3 留意点

1.3.1 サンプルの違いについて

本稿 2.以降の分析結果をみるにあたり、サンプルの違いについて念頭に置かれたい。今回の調査は、無作為抽出ではなく登録モニターに対するインターネット調査であることから、世田谷区という母集団の傾向を適切に反映することが難しいという特徴がある。そこで、実際に世田谷区が公開している人口統計²とウェブ調査のサンプルの構成を比較し、その違いを視覚的に捉える。

² 世田谷区ホームページ「世田谷区の統計」では、住民基本台帳に基づいた年齢別人口を掲載している。<https://www.city.setagaya.lg.jp/toukei/toukei/12637.html>

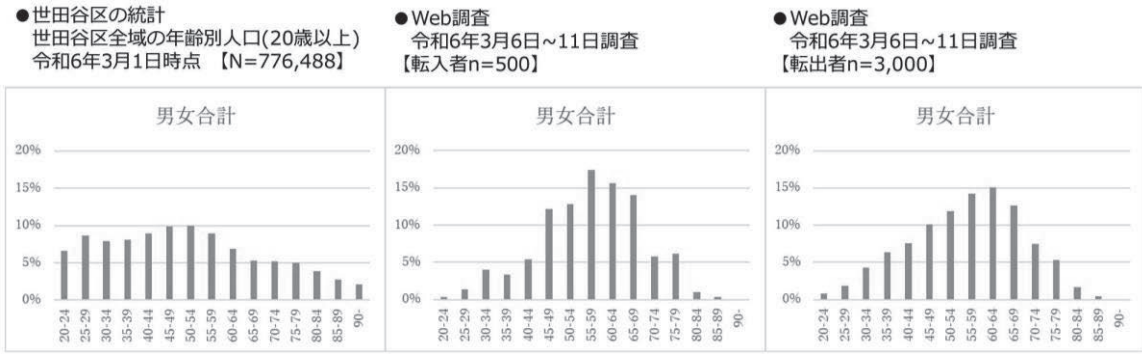


図 3 年齢別人口グラフ(男女合計)

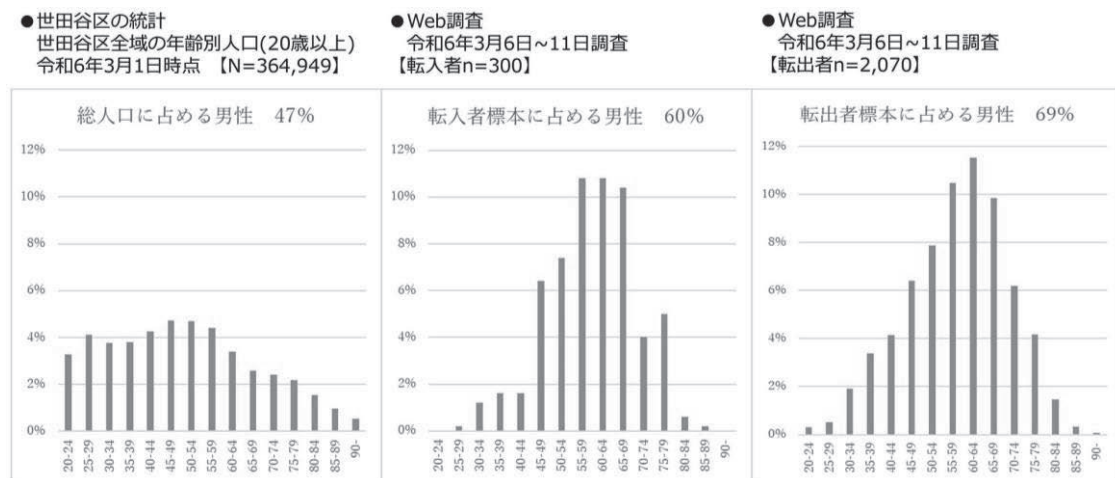


図 4 年齢別人口グラフ(男性のみ)



図 5 年齢別人口グラフ(女性のみ)

図 3 から 5 の通り、左から世田谷区全域の人口、ウェブ調査の転入者、ウェブ調査の転出者の 5 歳毎の年齢別の割合を示したグラフである。世田谷区の統計よりもウェブ調査の方が、割合が高い年齢層、極端に少ない年齢層があることがうかがえる。男性のみ(図 4)で比較すると、それが顕著にみられる。女性のみ(図 5)で比較すると、一部の年齢では細かな違いこそあるが、男性の場合と比べると全体的に大きな違いはないようにみられる。

このように、ウェブ調査のサンプルの特徴として、母集団と比較して偏りが生じてしまうことがある。

1.3.2 分析の際の属性について

本稿 2. 3.における分析では、世帯構成を属性の軸として扱う。理由は二つある。一つ目は、大石・田中(2023)の報告との差別化を図るためである。大石・田中(2023)では、年齢について言及していたが、世帯構成については触れられていない。二つ目は、転出者の移動時年齢が特定できないためである。転入者においては、ウェブ調査の設問で「あなたは、世田谷区にいつ転入されましたか」という設問があり、その選択肢のうち「10 年以上前から」という回答は、移動時の年齢を特定できないため除外するなどの作業ができる。しかし、転出者においては「あなたは、世田谷区にいつ転入されましたか」という設問に回答がなく、これ以外にいつ世田谷区から転出したのかなどの設問もないため、推定のしようがない。

ウェブ調査の回答者の世帯構成については、表 2 の通り 6 つに分け、本稿における呼称を定めた。なお、ウェブ調査の「あなたの世帯構成（同居家族）について『転入前』、『転入後』それぞれお聞かせください。」という設問に対する回答に基づいた振り分けをしているため、正確な親族関係まで把握できないことはご容赦いただきたい。

表 2 回答者の世帯構成と呼称

世帯構成	呼称
本人のみ	単身世帯
本人、配偶者またはパートナー	夫婦世帯
本人、配偶者またはパートナー、子	核家族世帯
本人、親※	本人＋親
本人、親※、兄弟姉妹	本人＋親＋兄弟姉妹
その他	その他

※本人または配偶者の両親またはひとり親

表 2 の世帯構成で分けた場合のサンプル数を、転入・転出前後それぞれでグラフにしたものが図 6、図 7 である。

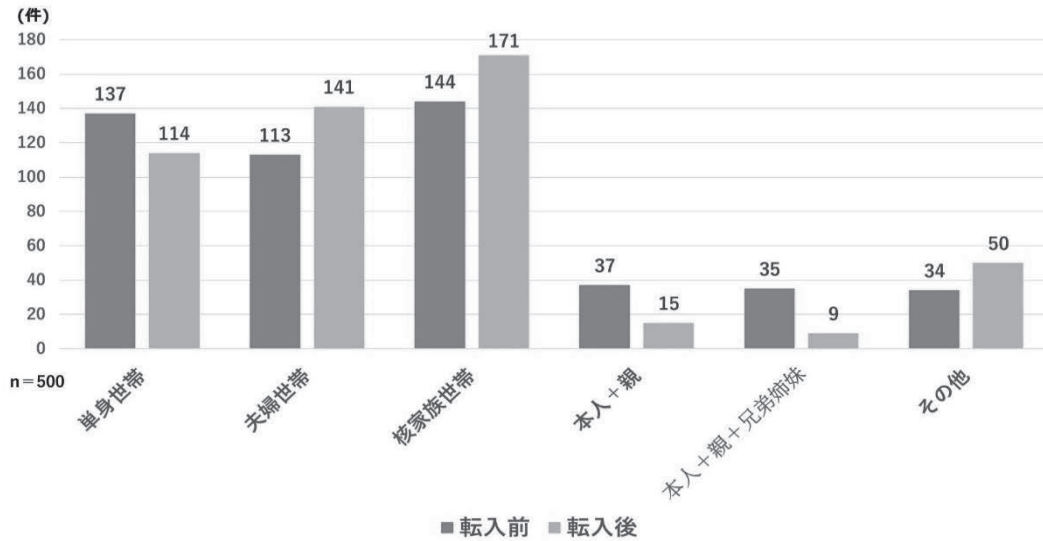


図6 世帯構成(転入前後)

転入前後の世帯構成のサンプル数を比較した図6を見ると、転入後には単身世帯が減り、夫婦世帯・核家族世帯が増加していることがわかる。

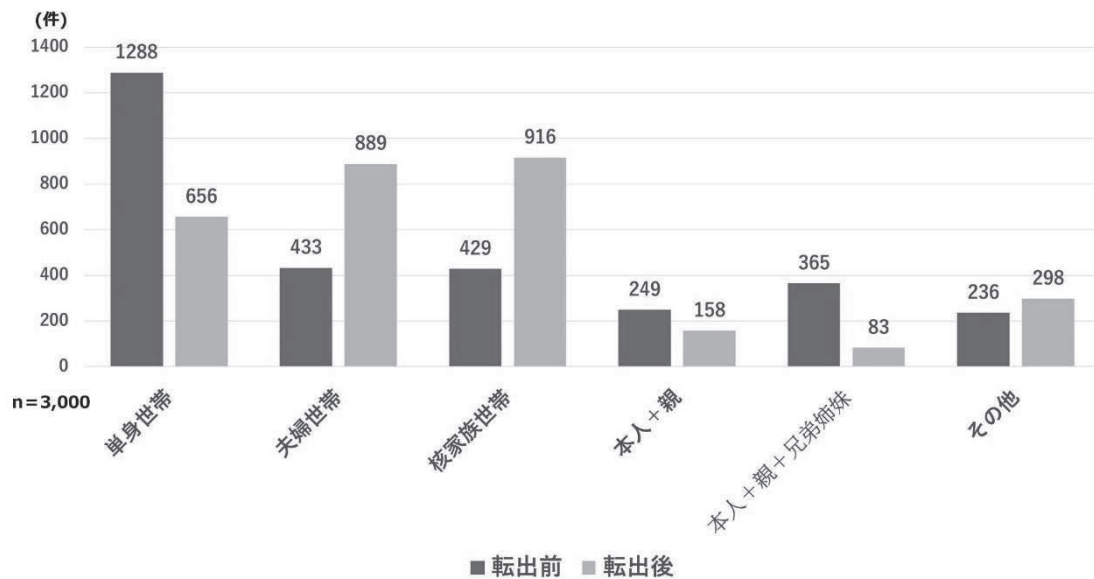


図7 世帯構成(転出前後)

転出前後の場合(図7)でも、転入前後と同様に単身世帯が減少し、夫婦世帯・核家族世帯が増加している。

これらを踏まえ、特にサンプルの割合が多い単身世帯・夫婦世帯・核家族世帯を中心に分析結果を述べていく。また、転入・転出前後で世帯構成が変化しているため、設問内容に応じて適当と思われる時点における世帯構成で集計、分析を行う。

2. 住民の転入・転出理由

転入・転出において、移動のきっかけや居住地を選択する共通点や違いはないかを探るべく、転入者・転出者それぞれの引っ越しするきっかけとなった理由、今の居住地を選んだ理由を比較していく。その方法として、ウェブ調査からそれらに類似する設問をピックアップし、回答数の多い順に並べたパレート図と、世帯構成別でクロス集計した結果をランキング形式にして示す。

2.1 住民の転入理由

2.1.1 引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由

転入者を対象に、引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由を回答の多い順に左から並べたものが、次の図8である。

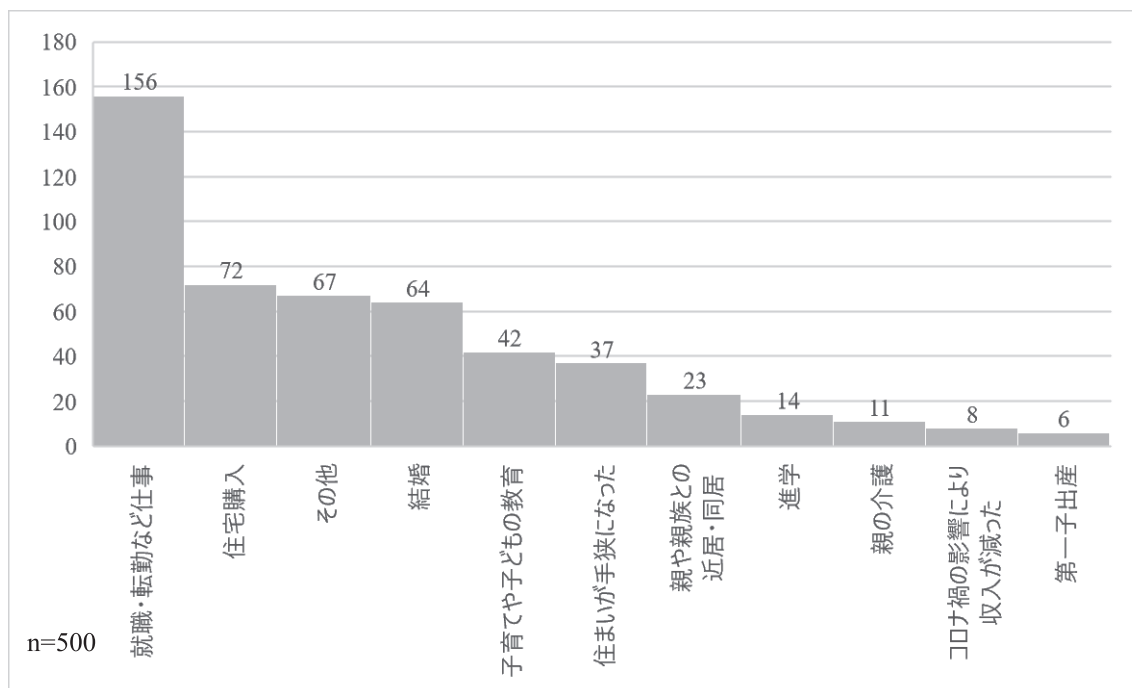


図8 引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由(単位：件)

回答のうち、最も多かったのは「就職・転勤など仕事」であり、他の回答と比べて倍以上である。

次に、世帯構成ごとの回答の割合をランキングにしたものが図9である。

	単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親 + 兄弟姉妹		その他	
1	就職・転勤など 仕事	43%	住宅購入	25%	就職・転勤など 仕事	23%	就職・転勤など 仕事	46%	就職・転勤など 仕事	37%	就職・転勤など 仕事	21%
2	結婚	20%	就職・転勤など 仕事	24%	住宅購入	20%	結婚	19%	結婚	31%	子育てや子どもの 教育	18%
3	その他	12%	その他	17%	子育てや子どもの 教育	20%	その他	19%	その他	17%	結婚	12%
4	住まいが手狭に なった	8%	結婚	9%	その他	10%	住宅購入	8%	親や親族との 近居・同居	6%	その他	12%
5	住宅購入	7%	住まいが手狭に なった	8%	住まいが手狭に なった	10%	進学	5%	住宅購入 など	3%	進学	9%

※「転入前」の世帯構成 n=500 単身世帯 137 夫婦世帯 113 核家族世帯 144 本人+親 37 本人+親+兄弟姉妹 35 その他 34
※回答のうち上位5位まで掲載。

図9 引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由(世帯構成別ランキング)

単身世帯では「結婚」が2位、核家族世帯では「子育てや子どもの教育」が2位、夫婦世帯・核家族世帯では「住宅購入」が1位、2位と上位にランクインしている。このことから、各世帯におけるライフイベントが引っ越しに影響していることがうかがえる。

2.1.2 世田谷区を選んだ最も大きな理由

世田谷区を選んだ最も大きな理由は、図10の通り「勤務先への交通の便が良いから」が一番多い。前述した「引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由」で一番多かった「就職・転勤など仕事」と同様、他の回答と比べて倍以上の度数である。2番目は「都心へのアクセスが良いから」となっており、交通面での利点も挙げられている。

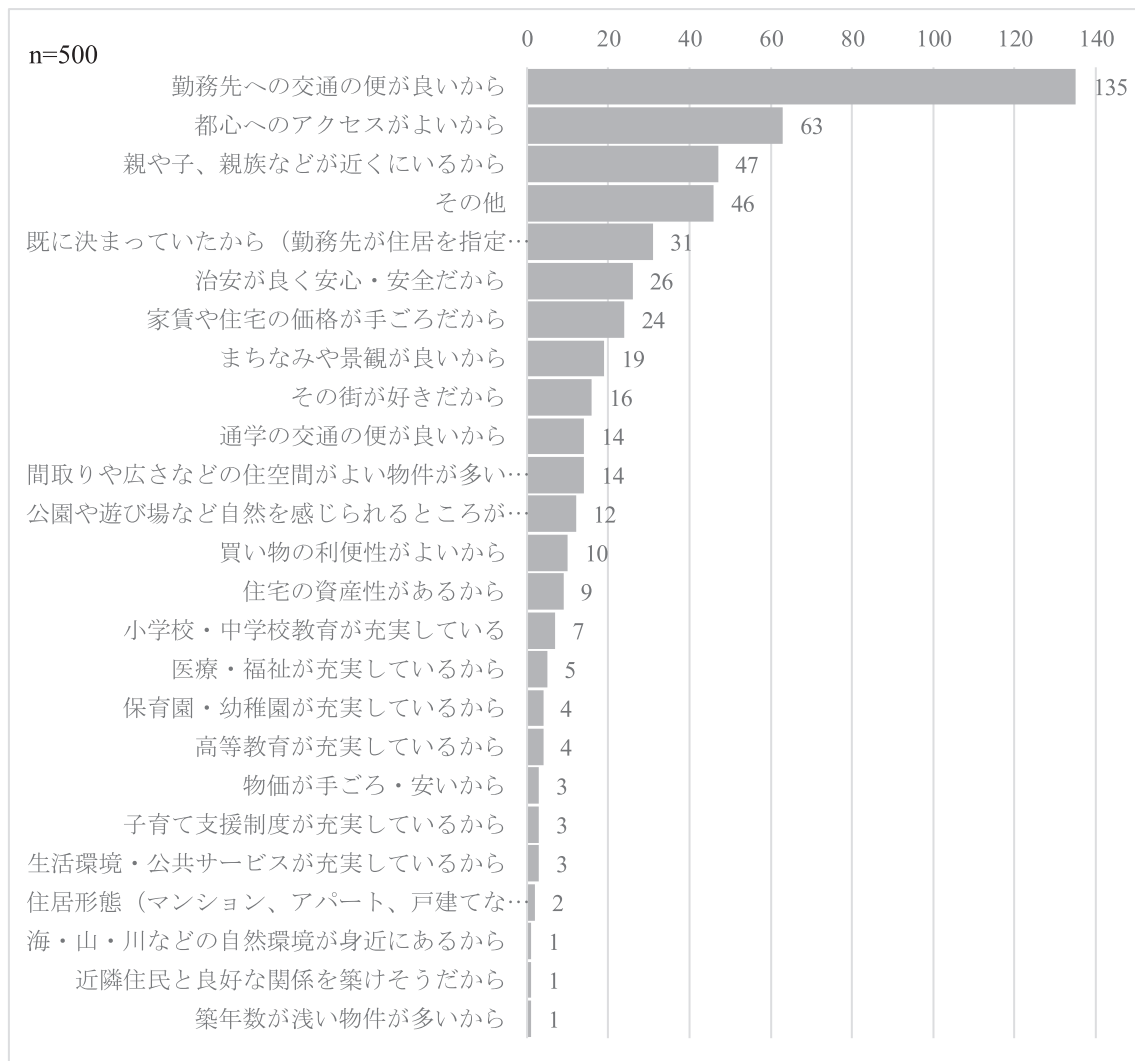


図 10 世田谷区を選んだ最も大きな理由(単位：件)

図 11 の世帯構成別においても、「勤務先への交通の便が良いから」が 1 位となっており、夫婦世帯・核家族世帯では「親や子、親族などが近くにいるから」が上位にランクインしている。このことから、子育てや介護を目的に世田谷区を選んでいることが推測される。

	単身世帯	夫婦世帯	核家族世帯	本人+親	本人+親 +兄弟姉妹	その他
1	勤務先への交通の 便が良いから 43%	勤務先への交通の 便が良いから 24%	勤務先への交通の 便が良いから 22%	勤務先への交通の 便が良いから 20%	治安が良く安心・ 安全だから 22%	勤務先への交通の 便が良いから 24%
2	都心へのアクセス がよいから 17%	親や子、親族など が近くにいるから 12%	都心へのアクセス がよいから 12%	都心へのアクセス がよいから 13%	その他 18%	その他 18%
3	その他 11%	都心へのアクセス がよいから 11%	親や子、親族など が近くにいるから 11%	親や子、親族など が近くにいるから 13%	通学の交通の便が 良いから 11%	都心へのアクセス がよいから 14%
4	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 6%	既に決まっていた から（勤務先が住 居を指定 親族の 家に同居 等） 10%	その他 8%	住宅の資産性が ある 13%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 11%	親や子、親族など が近くにいるから 10%
5	親や子、親族など が近くにいるから など 4%	治安が良く安心・ 安全だから 7%	治安が良く安心・ 安全だから 6%	その他 13%	親や子、親族など が近くにいるから など 11%	既に決まっていた から（勤務先が住 居を指定 親族の 家に同居 等） 6%

※「転入前」の世帯構成 n=500 単身世帯 137 夫婦世帯 113 核家族世帯 144 本人+親 37 本人+親+兄弟姉妹 35 その他 34
※回答のうち上位5位まで掲載。“-”は回答が0。

図 11 世田谷区を選んだ最も大きな理由(世帯構成別ランキング)

2.2 住民の転出理由

2.2.1 転出するきっかけとなった理由

転出者においても、2.1 と同様の見方をしていく。図 12 の通り、「就職・転勤など仕事」が最も多く、「結婚」「住宅購入」といったライフイベントに相当する理由が続いている。

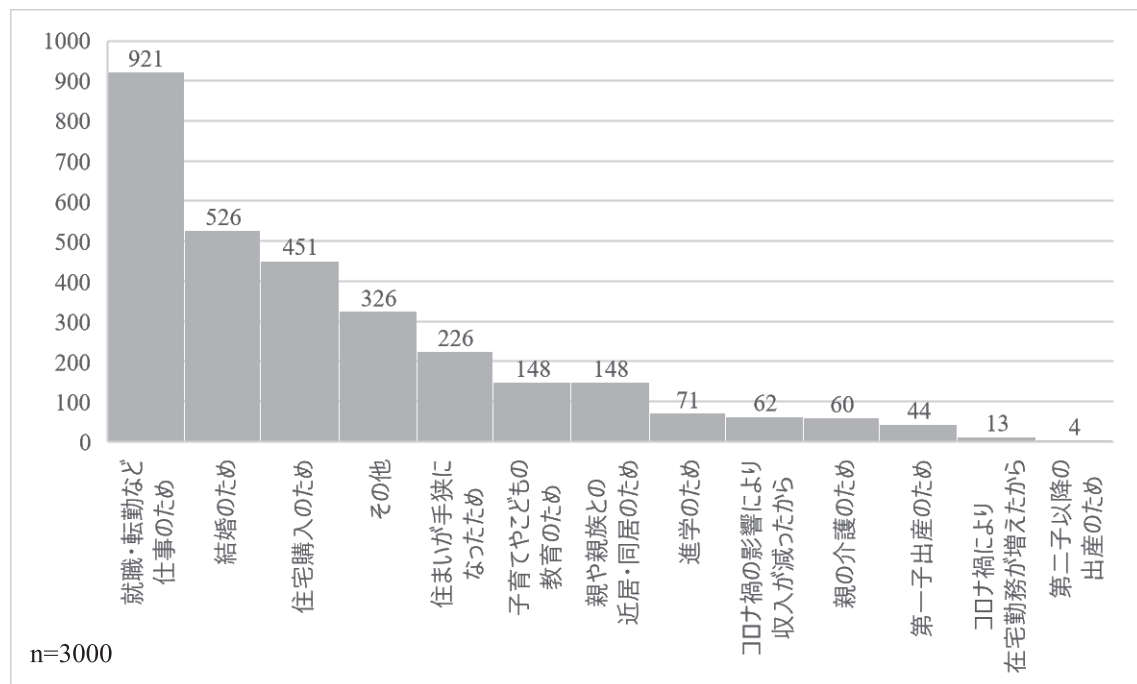


図 12 引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由(単位：件)

世帯構成別(図 13)においても、転入者と類似する結果となっている。

	単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親 +兄弟姉妹		その他	
1	就職・転勤など 仕事のため	39%	住宅購入のため	24%	住宅購入のため	27%	就職・転勤など 仕事のため	30%	結婚のため	27%	就職・転勤など 仕事のため	21%
2	結婚のため	24%	就職・転勤など 仕事のため	22%	就職・転勤など 仕事のため	24%	結婚のため	19%	就職・転勤など 仕事のため	25%	結婚のため	17%
3	その他	9%	その他	11%	住まいが手狭に なったため	13%	住宅購入のため	15%	住宅購入のため	20%	住宅購入のため	13%
4	住宅購入のため	7%	住まいが手狭に なったため	8%	その他	11%	その他	14%	その他	14%	その他	11%
5	住まいが手狭に なったため	6%	子育てや子どもの 教育のため	8%	子育てやこどもの 教育のため	10%	親や親族との 近居・同居のため	6%	住まいが手狭に なったため	8%	住まいが手狭に なったため	8%

※「転出前」の世帯構成 n=3000 単身世帯 1288 夫婦世帯 433 核家族世帯 429 本人+親 249 本人+ 親+兄弟姉妹 365 その他 236
※回答のうち上位5位まで掲載。

図 13 引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由(世帯構成別ランキング)

2.2.2 転出後の今のお住まいのエリアを選んだ最も大きな理由

転出後の今のお住まいのエリアを選んだ最も大きな理由(図 14)は、転入者と同様に「勤務先への交通の便が良いから」が 1 番多い結果となっているが、転入者では見られなかった「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が 2 番目に挙がっている点が特徴的といえる。このことから、世田谷区の住宅相場が相対的に高く感じられていることが推測される。

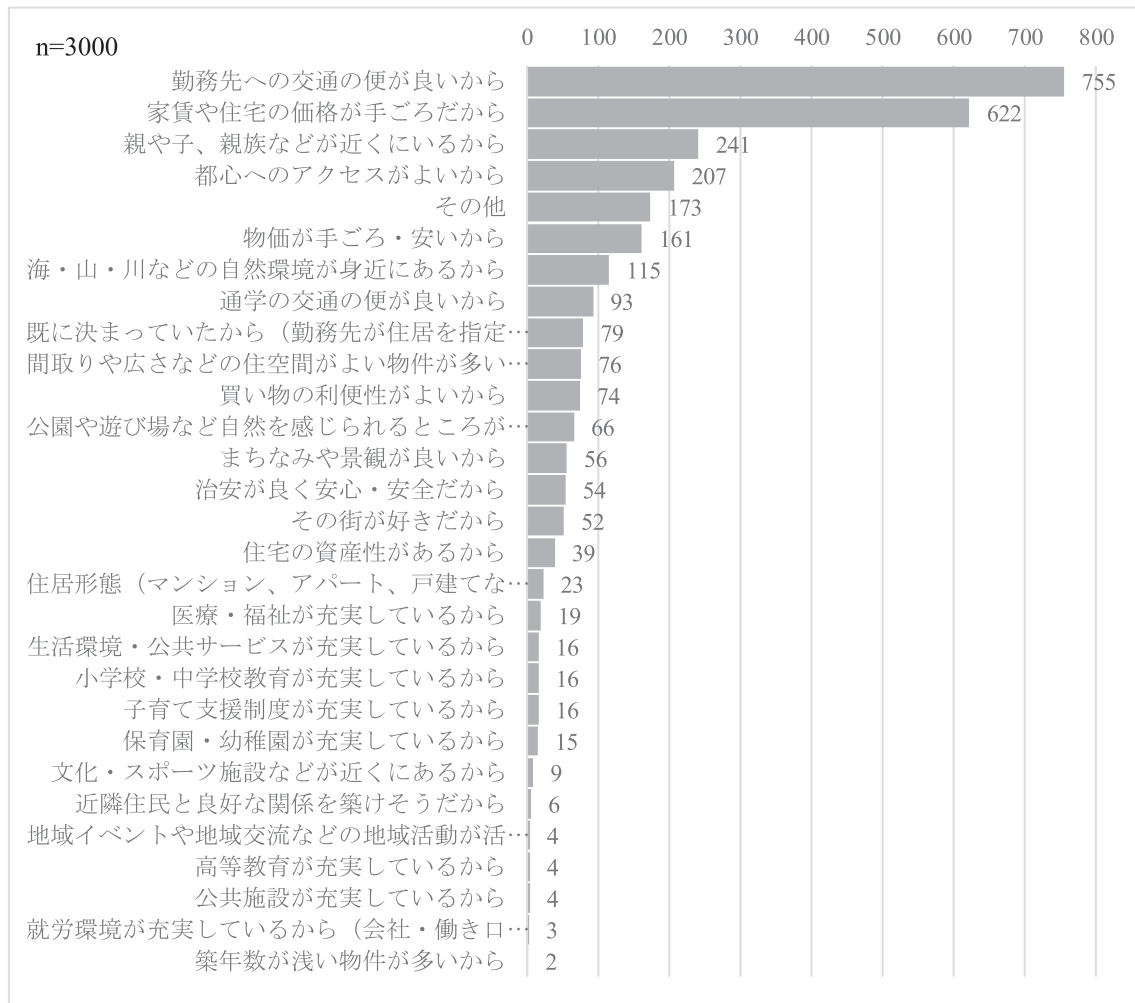


図 14 転出後の今のお住まいのエリアを選んだ最も大きな理由(単位：件)

世帯構成別(図 15)において、夫婦世帯・核家族世帯の 3 位に「親や子、親族などが近くにいるから」がランクインしており、この点は 2.1.2 で述べた内容と類似している。

	単身世帯	夫婦世帯	核家族世帯	本人+親	本人+親 + 兄弟姉妹	その他
1	勤務先への交通の 便が良いから 37%	勤務先への交通の 便が良いから 25%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 24%	勤務先への交通の 便が良いから 22%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 24%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 18%
2	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 18%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 20%	勤務先への交通の 便が良いから 21%	家賃や住宅の価格 が手ごろだから 19%	勤務先への交通の 便が良いから 17%	勤務先への交通の 便が良いから 15%
3	都心へのアクセス がよいから 6%	親や子、親族など が近くにいるから 8%	親や子、親族など が近くにいるから 9%	その他 11%	その他 17%	親や子、親族など が近くにいるから 13%
4	物価が手ごろ・ 安いから 6%	都心へのアクセス がよいから 8%	都心へのアクセス がよいから 7%	物価が手ごろ・ 安いから 8%	親や子、親族など が近くにいるから 7%	都心へのアクセス がよいから 7%
5	親や子、親族など が近くにいるから 5%	物価が手ごろ・ 安いから 6%	物価が手ごろ・ 安いから 4%	都心へのアクセス がよいから 6%	物価が手ごろ・ 安いから 7%	その他 7%

※「転出後」の世帯構成 n=3000 単身世帯 656 夫婦世帯 889 核家族世帯 916 本人+親 158 本人+ 親+兄弟姉妹 83 その他 298
※回答のうち上位5位まで掲載。

図 15 転出後のお住まいのエリアを選んだ最も大きな理由(世帯構成別ランキング)

2.3 小括

引っ越しするきっかけとなった最も大きな理由として、転入・転出ともに「仕事都合」「結婚」「住宅購入」などのライフイベントが多く、世帯構成によってその割合はやや異なっている。また、今の居住地(世田谷区もしくは転出先)を選んだ最も大きな理由として、すべての世帯に多い理由は「勤務先への交通の便が良いから」であり、他世帯よりも単身世帯の割合が高い。夫婦世帯・核家族世帯では、「親や子、親族などが近くにいるから」が3位以内にランクインしており、「子育て」や「介護」などのライフステージの影響が考えられる。

3. 世田谷区に対する満足感

住民が定住または転出を考える要因の一つとして、世田谷区に住んでいる(いた)時の満足感が考えられる。3.では、2.と同様転入者・転出者それぞれの関連設問のパレート図と世帯構成別ランキングをみながら両者の特徴や傾向を比較し、世田谷区に対する満足感を捉える。

3.1 転入者が持つ世田谷区に対する満足感

3.1.1 前に住んでいた自治体より世田谷区の方が良かったと思う点

転入者が感じた世田谷区の良かったと思う点をパレート図に示したものが図 16 である。

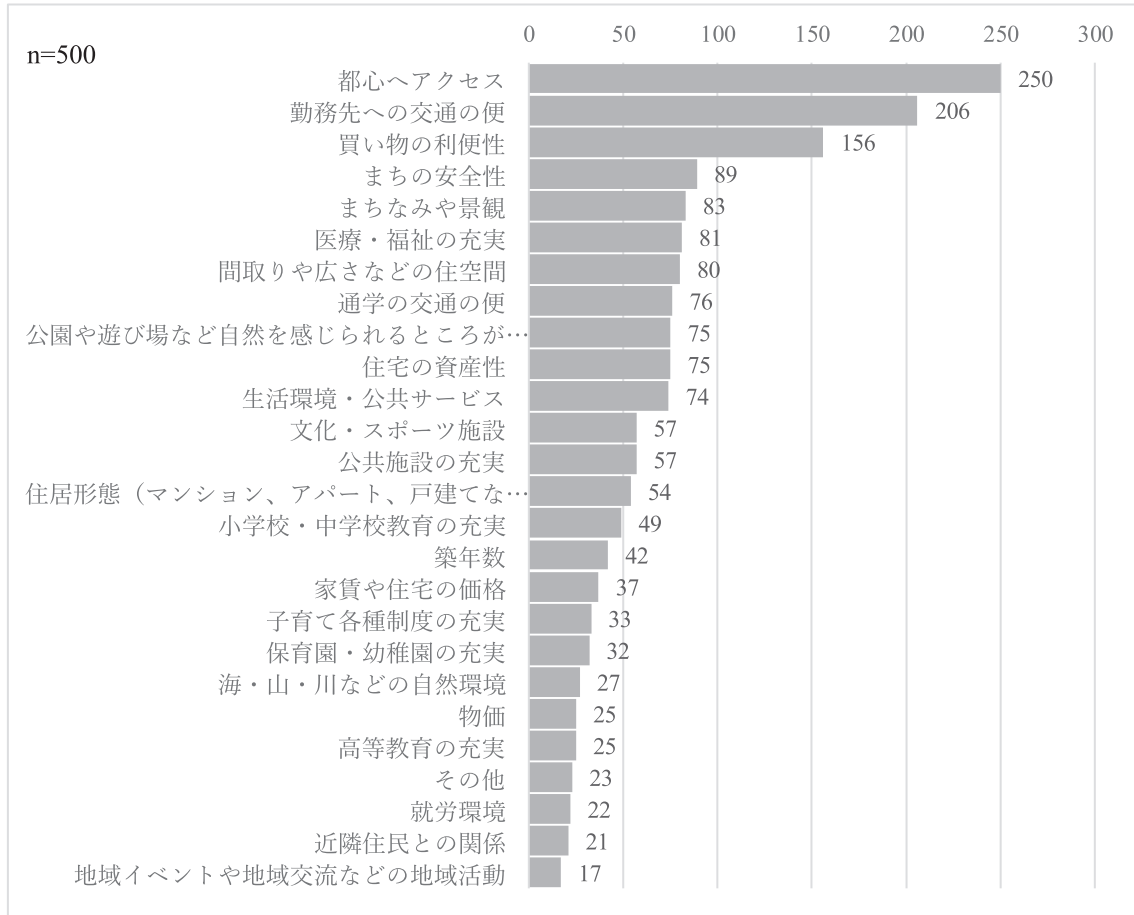


図 16 前に住んでいた自治体より世田谷区の方が良かったと思う点(パレート図)

転入前に住んでいた自治体より世田谷区の方が良かった点として、「都心へアクセス」「勤務先への交通の便」が上位に挙がっており、都市部の強みである交通の利便性に満足感があることがうかがえる。

単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親+兄弟姉妹		その他	
1	勤務先への交通の便 21%	都心へのアクセス 15%	都心へのアクセス 11%	都心へのアクセス 32%	買い物の利便性 18%	都心へのアクセス 15%					
2	都心へのアクセス 19%	買い物の利便性 12%	勤務先への交通の便 9%	勤務先への交通の便 11%	勤務先への交通の便 14%	勤務先への交通の便 12%					
3	買い物の利便性 11%	勤務先への交通の便 10%	買い物の利便性 7%	買い物の利便性 11%	都心へのアクセス 14%	通学の交通の便 7%					
4	生活環境・公共サービス 5%	まちなみや景観 6%	まちの安全性 6%	文化・スポーツ施設 8%	医療・福祉の充実 14%	生活環境・公共サービス 6%					
5	間取りや広さなどの住空間 5%	医療・福祉の充実など 5%	まちなみや景観など 5%	住宅の資産性 8%	文化・スポーツ施設 9%	公園や遊び場など自然を感じられるところが身近にある 6%					

※「転入後」の世帯構成 n=500 単身世帯 114 夫婦世帯 141 核家族世帯 171 本人+親 15 本人+親+兄弟姉妹 9 その他 50
 ※回答のうち上位5位まで掲載。“—”は回答が0。

図 17 前の自治体より世田谷区の方が良かったと思う点(世帯構成別ランキング)

世帯構成別(図 17)においても、「都心へのアクセス」「勤務先への交通の便」が上位にあり、中でも単身世帯における「勤務先への交通の便」の回答割合が 21%と、他の世帯よりも高い。また、いずれの世帯構成においても、「買い物の利便性」が 5 位以内にランクインしており、この点に関しても人口が多い都市部の強みといえる。

3.1.2 世田谷区に対する不満点

転入者が実際に世田谷区に住んでみて感じる不満点のパレート図が、図 18 である。

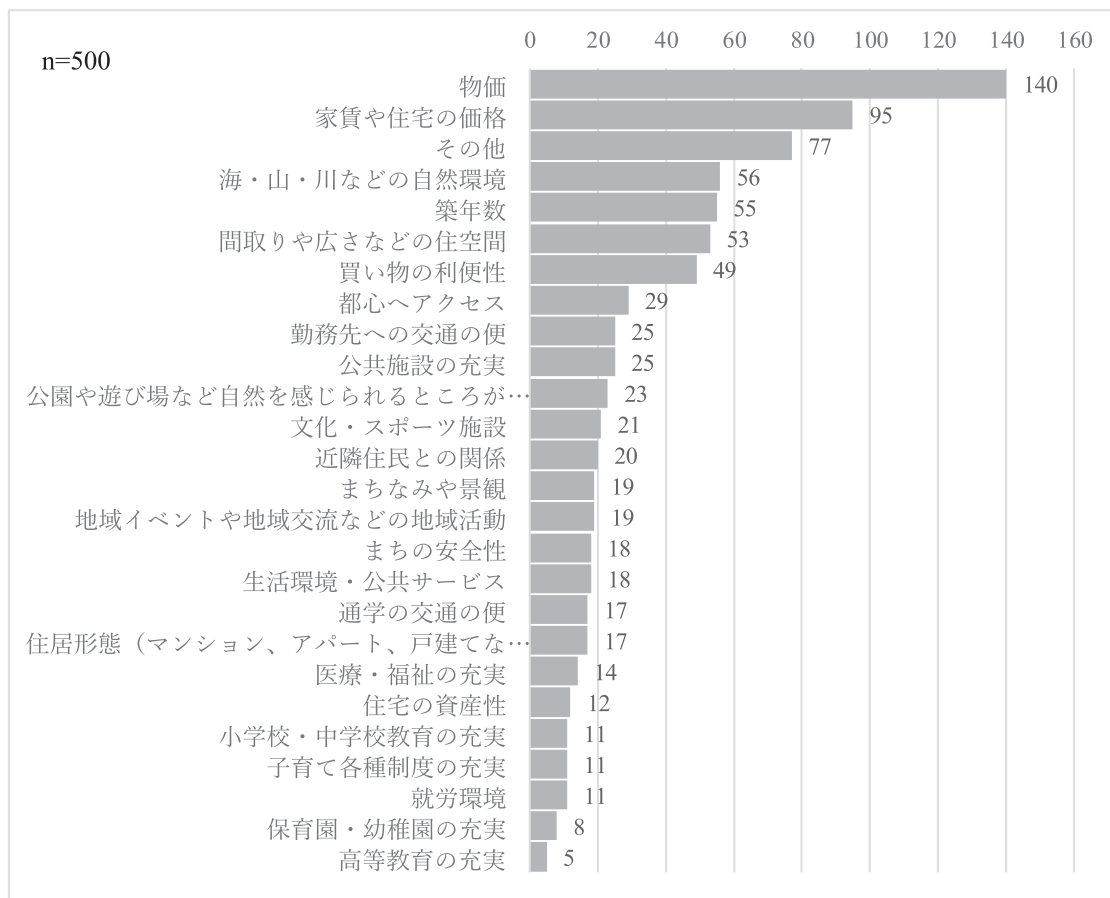


図 18 世田谷区に実際に住んでみて不満に感じる事(単位：件)

図 18 の通り、「物価」「家賃や住宅の価格」と、経済的理由が上位に挙げられている。他の自治体よりも世田谷区の相場が割高に感じられていることがうかがえる。

	単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親 + 兄弟姉妹		その他	
1	物価	14%	物価	20%	物価	17%	物価	19%	都心へアクセス	25%	物価	12%
2	家賃や住宅の価格	14%	家賃や住宅の価格	12%	家賃や住宅の価格	9%	海・山・川などの 自然環境	15%	物価	13%	家賃や住宅の価格	11%
3	間取りや広さなどの 住空間	11%	その他	10%	買い物の利便性	8%	近隣住民との関係	11%	海・山・川などの 自然環境	13%	その他	11%
4	その他	9%	海・山・川などの 自然環境	7%	海・山・川などの 自然環境	7%	生活環境・ 公共サービス	11%	通学の交通の便	6%	買い物の利便性	7%
5	築年数	8%	築年数	6%	その他	8%	通学の交通の便	7%	買い物の利便性 など	6%	公共施設の充実	6%

※「転入後」の世帯構成 n=500 単身世帯 114 夫婦世帯 141 核家族世帯 171 本人+親 15 本人+ 親+兄弟姉妹 9 その他 50
 ※回答のうち上位5位まで掲載。“－”は回答が0。

図 19 世田谷区に実際に住んでみて不満に感じること(世帯構成別ランキング)

世帯構成別(図 19)において、夫婦世帯・核家族世帯では「家賃や住宅の価格」よりも「物価」に不満を感じている割合が高い。一方、単身世帯はともに 14%と同率である。

3.2 転出者が持つ世田谷区に対する満足感

3.2.1 今住んでいる自治体より世田谷区の方が良かったと思う点

転出者においても、3.1 と同様にパレート図と世帯構成別ランキングを示していく。

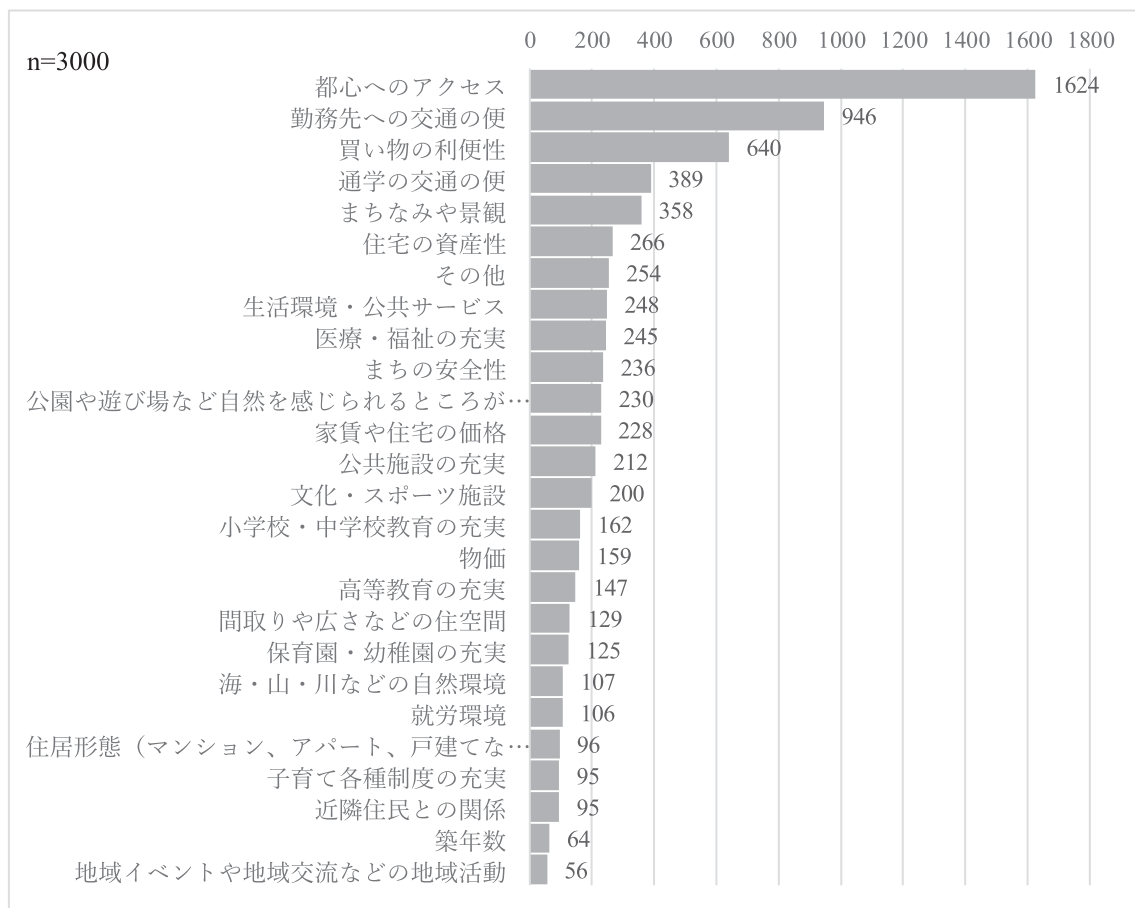


図 20 今住んでいる自治体より世田谷区の方が良かったと思う点(単位：件)

図 20 の通り、「都心へのアクセス」が群を抜いており、「勤務先への交通の便」「買い物の利便性」がそれに続いている。順位としては、転入者と同様といえる。

	単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親 +兄弟姉妹		その他	
1	都心へアクセス	22%	都心へアクセス	22%	都心へアクセス	22%	都心へアクセス	24%	都心へアクセス	23%	都心へアクセス	19%
2	勤務先への 交通の便	14%	勤務先への 交通の便	13%	勤務先への 交通の便	13%	勤務先への 交通の便	10%	勤務先への 交通の便	12%	勤務先への 交通の便	12%
3	買い物の利便性	9%	買い物の利便性	9%	買い物の利便性	8%	買い物の利便性	8%	買い物の利便性	9%	買い物の利便性	8%
4	その他	5%	通学の交通の便	5%	通学の交通の便	6%	通学の交通の便	6%	通学の交通の便	6%	通学の交通の便	5%
5	まちなみや景観	5%	まちなみや景観	4%	まちなみや景観	5%	まちなみや景観	5%	まちなみや景観	6%	まちなみや景観	5%

※「転出後」の世帯構成 n=3000 単身世帯 656 夫婦世帯 889 核家族世帯 916 本人+親 158 本人+親+兄弟姉妹 83 その他 298
※回答のうち上位5位まで掲載。

図 21 今住んでいる自治体より世田谷区の方が良かったと思う点(世帯構成別ランキング)

世帯構成別(図 21)において、全ての世帯がほぼ同様の順位となっていることから、世帯構成によって違いはほとんどないということがうかがえる。

3.2.2 世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点

最後に、転出者が世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点をみていく。

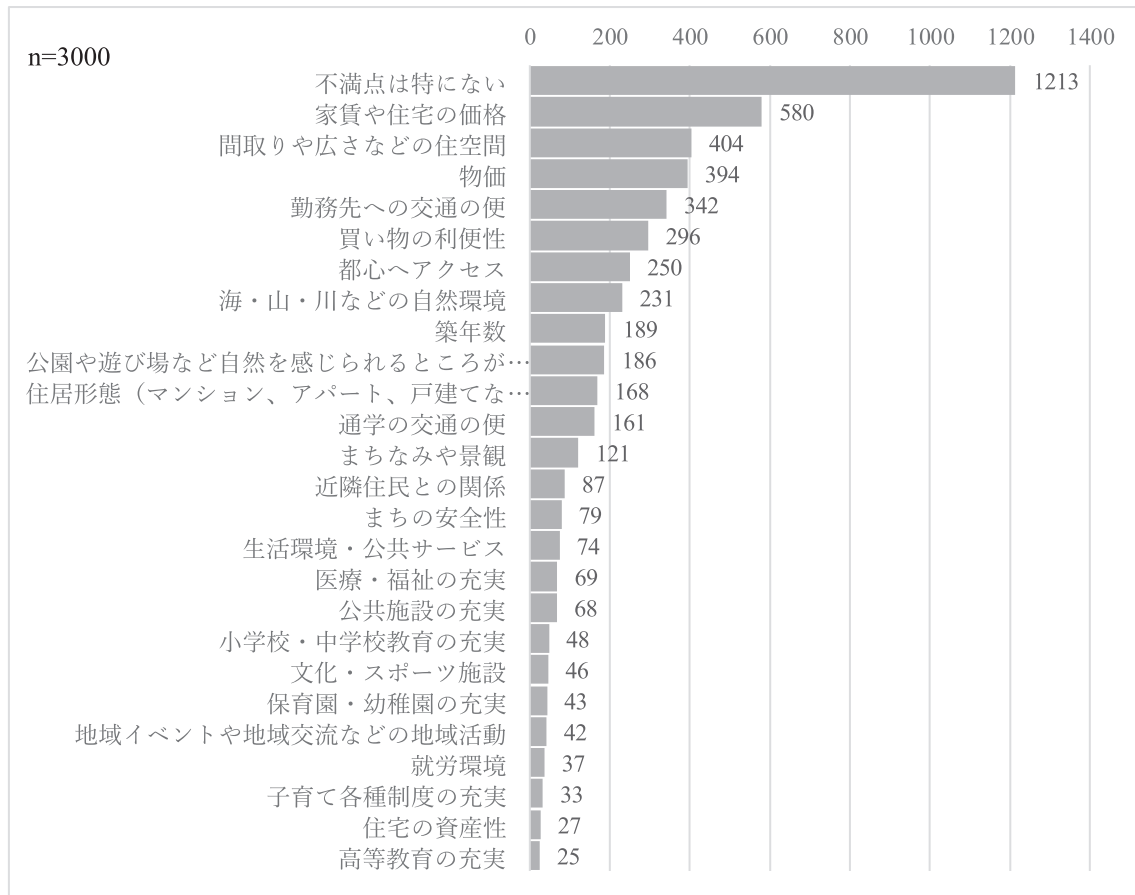


図 22 世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点(単位：件)

図 22 の通り、「不満点は特にない」が圧倒的に 1 位となっている。2 位以降は「家賃や住宅の価格」「間取りや広さなどの住空間」「物価」と経済的理由が挙げられており、この点については転入者と類似しているといえる。

	単身世帯		夫婦世帯		核家族世帯		本人+親		本人+親 +兄弟姉妹		その他	
1	不満点は特にない	20%	不満点は特にない	24%	不満点は特にない	24%	不満点は特にない	28%	不満点は特にない	34%	不満点は特にない	20%
2	家賃や住宅の価格	13%	家賃や住宅の価格	10%	家賃や住宅の価格	12%	家賃や住宅の価格	11%	間取りや広さなどの住空間	8%	家賃や住宅の価格	10%
3	間取りや広さなどの住空間	8%	物価	8%	間取りや広さなどの住空間	8%	物価	9%	公園や遊び場など自然を感じられるところが身近にある	8%	間取りや広さなどの住空間	7%
4	勤務先への交通の便	7%	間取りや広さなどの住空間	7%	物価	8%	勤務先への交通の便	7%	勤務先への交通の便	6%	物価	7%
5	物価	7%	勤務先への交通の便	7%	勤務先への交通の便	7%	間取りや広さなどの住空間	6%	物価	9%	買い物の利便性	6%

※「転出後」の世帯構成 n=3000 単身世帯 656 夫婦世帯 889 核家族世帯 916 本人+親 158 本人+親+兄弟姉妹 83 その他 298
※回答のうち上位5位まで掲載。 その他の記述回答はなし。

図 23 世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点(世帯構成別ランキング)

世帯構成別(図 23)においても、順位に大きな違いはなく、全ての世帯で「不満点は特にない」という回答が最も多かった。故に、転出した理由の中には、世田谷区に対する不満はほとんどなく、あったとしても家賃や住宅の価格、物価といった経済面での要素が主だといえる。

3.3 小括

転入者・転出者それぞれが感じる世田谷区の良かった点で共通していることは、「都心へのアクセス」「勤務先への交通の便」「買い物の利便性」であり、人口が多い都市部としての機能に強い満足感を持ってもらえていることがわかった。

世田谷区の不満点で共通していることは、「物価」「家賃や住宅の価格」であり、こちらについても人口の多さや交通インフラが充実しているまちの特徴ともいえる点である。しかしながら、3.2.2 で述べた通り、転出者が世田谷区にお住まいの時に感じていた不満点は「特にない」という回答が最も多かったことは特筆すべき点である。仕事都合や結婚など、各住民のライフステージによって、生活の条件をより満たせる環境が世田谷区外にあったということが推測されるため、少なくとも世田谷区に不満があっても転出したわけではないことが考えられる。

4. 住民の価値観

回答者の価値観の傾向の把握と、年齢や性別などといった属性によって価値観に違いがあるかを分析するにあたり、転入者・転出者それぞれに「【コロナ以前(または以後)のあなたの価値観・意識についてお聞きします】以下の項目について、あなたに最も近いものをお聞かせください。」という同じ設問があるため、これを用いる。当該設問では、「楽しいことには時間を費やす」「専門家や他の人の意見や提案にしたがって物事を決めることが多い」「地域イベントや地域コミュニティなどの地域活動は大事なことだと思う」などが当ては

まるかどうか、回答者の価値観や意識について問うている。本分析では、回答時に近い時期という観点でコロナ以後のみの設問を用いる。住民の価値観を分析するにあたり、回答者がそれぞれの回答を決める元となった共通因子を見つけ出す手法である因子分析を行う。これにより、算出された共通因子を価値観のタイプとみなして住民の価値観を捉えてみる。次に、この因子分析で得た因子得点³を用いて分散分析を行い、性別、回答時年齢(以下年齢という)、世帯構成によって価値観の度合いに有意差があるかどうか、またそれらの属性によって価値観の度合いに特徴や傾向がみられるかを探っていく。なお、本分析では HAD という Excel VBA を利用したフリープログラムを使用する(清水・村山・大坊, 2006)。

4.1 転入者の価値観

4.1.1 因子分析による価値観のタイプ分け

当該設問を因子分析するにあたり、因子の数の目安を決める方法であるスクリープロットを実施したところ、3 または 4 と出た。可能な限り最小限にして集約したいため、因子数は 3 とした。結果は表 3 の通りである。

³ 各サンプル(回答者)が持つ、各共通因子の度合いの強さを示すもの。表 6 以降の「平均値」は、この因子得点を元に算出している。

表 3 因子分析※1 の結果(転入者)

因子 ※2	設問	因子負荷量※3			共通性 ※4
		F1	F2	F3	
F1	楽しいことには時間を費やす	.871	-.098	-.017	.686
	用事は効率的にすませるようにしている	.867	.062	-.127	.701
	心身ともにリラックスした生活を送る	.839	-.231	.150	.694
	価格が品質に見合っているかよく検討して買う	.832	-.008	-.051	.649
	生活の中で「仕事」よりも「家庭生活」や「地域・個人の生活」を大事にしたい	.765	-.030	.024	.584
	自分らしさにこだわって商品を選ぶ	.717	.080	-.006	.564
	品質のよい商品やサービスに囲まれて暮らしたい	.698	.168	.004	.617
	実際の生活で「仕事」よりも「家庭生活」や「地域・個人の生活」を大事にできている	.594	-.004	.163	.470
	切りつめられるお金はできる限り切りつめたい	.568	.163	-.117	.350
	住居を選ぶ際にリノベーション済みの戸建てやマンション、アパートへの抵抗はない	.294	.154	.136	.233
F2	専門家や他の人の意見や提案にしたがって物事を決めることが多い	-.110	.877	-.059	.643
	他人からの評価を考えながら行動する方だ	-.208	.819	-.030	.548
	人との交流を通じて自分のネットワークを充実するよう努めている	.007	.555	.322	.654
	質問や意見交換など対話のできる情報源が好きな方だ	.035	.541	.270	.585
	人生で成功を収めたい	.274	.538	-.088	.407
	仕事はなるべくテレワークで対応したい	.171	.477	-.098	.256
	広さや間取りを犠牲にしても住宅価格を重視したい	.127	.441	.019	.270
	最寄り駅からの近さや交通の便などの利便性より広さや間取りを重視したい	.156	.406	.149	.367
F3	地域イベントや地域コミュニティなどの地域活動は大事なことだと思う	-.009	-.058	.971	.862
	地域の方との交流に積極的に関わっていききたい	-.118	.120	.883	.836
	自分の住んでいる地域がテレビなどで話題になっているとうれしくなる	.228	.041	.531	.489

※1 この因子分析は、最尤法、プロマックス回転で行った。

※2 F1,F2,F3 は第1因子、第2因子、第3因子(Factor1,2,3)を指す。

※3 因子負荷量：各変数(この場合でいう設問)が因子に寄与している程度を示す値。値の範囲は-1～1。

※4 共通性：各変数からみた、各因子によって説明される割合。値の範囲は-1～1。この値が高いほど、変数が因子と深く関係していることになる。

表 4 因子間相関※

	F1	F2	F3
F1	1.000	.414	.481
F2	.414	1.000	.664
F3	.481	.664	1.000

※各因子同士の相関を示したもの。値の範囲は-1 から 1 まで。1 に近いほど正の相関が高く、-1 に近づくほど負の相関が高い。

各因子を形成する設問から共通点を見出し、それに応じた因子名を決める必要がある。第 1 因子(F1)は、自分らしさや自分の QOL を重視しているように見受けられるため、「スマートなライフスタイル重視」とする。第 2 因子(F2)は、他者の意見や評価、交流を重視している傾向があるため、「社会とのつながり重視」とする。第 3 因子(F3)は、「地域」というキーワードが揃っているため、「地域とのつながり重視」とする。なお、区別こそしているが、人間の心理である以上誰しもそれぞれの因子を有しており、その中でも価値観の比重に違いがあるとして以上のような呼称としているため、決して回答者のパーソナリティを決定づける意図はないということは念頭に置きたい。

4.1.2 多元配置分散分析の結果

性別、年齢などといった属性は、これらの価値観のタイプに影響を与え得るのかを探るべく、属性の基礎といえる性別、年齢、世帯構成の 3 つを要因とし、因子得点を従属変数に置いたモデルで多元配置分散分析を行った。因子毎に分析結果を見比べ、特徴や傾向を捉える。なお、分析結果の p 値はいずれも有意水準 5% であり、有意差があるもの($p < 0.05$)は灰色で示している。

表 5 第 1 因子「スマートなライフスタイル重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
F 値	p 値	R^2	変数名(要因)	F 値	p 値
2.077	.014	.053	性別	1.419	.234
			年齢	2.056	.047
			世帯構成	2.784	.017

表6 第1因子「スマートなライフスタイル重視」分散分析結果 年齢(上)/世帯構成(下)

	水準	n	平均値 ⁴	p 値
年 齢	24 歳以下	2	1.157	.000
	25～34 歳	27	-0.171	.352
	35～44 歳	44	-0.302	.072
	45～54 歳	126	0.120	.473
	55～64 歳	165	-0.056	.598
	65～74 歳	98	0.192	.177
	75～84 歳	36	-0.025	.873
	85 歳以上	2	0.354	.002
世 帯 構 成	単身世帯	114	-0.101	.404
	夫婦世帯	141	0.144	.266
	核家族世帯	171	0.331	.000
	本人+親	15	0.092	.405
	本人+親+兄弟姉妹	9	0.369	.007
	その他	50	0.117	.470

表5右の要因の効果の p 値から、第1因子「スマートなライフスタイル重視」において、年齢と世帯構成に有意差があるため、これらによって統計的に影響があると解釈できる。しかし、表6の年齢を水準別でみると、サンプル数が非常に少ない24歳以下と85歳以上に有意差が出ているため、年齢という要因は影響を与えていないとみるのが妥当である。一方、世帯構成をみると、核家族世帯で有意差が出ており、平均値が0.331と正の値を示していることから、核家族世帯はスマートなライフスタイル重視の度合いがややあるということがうかがえる。

表7 第2因子「社会とのつながり重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
F 値	p 値	R^2	変数名(要因)	F 値	p 値
2.767	.001	.069	性別	5.636	.018
			年齢	2.444	.018
			世帯構成	3.973	.002

⁴ 因子分析で得られた各サンプルが持つ因子得点の平均値。この値が大きいほど、各因子(F1,2,3)で定義した価値観の度合いが強い。

表 8 第 2 因子「社会とのつながり重視」分散分析結果 性別(上)/年齢(中)/世帯構成(下)

	水準	n	平均値	p 値
性別	男性	300	0.181	.017
	女性	200	-0.029	.662
年齢	24 歳以下	2	0.394	.000
	25～34 歳	27	0.091	.609
	35～44 歳	44	0.142	.379
	45～54 歳	126	0.099	.541
	55～64 歳	165	-0.141	.171
	65～74 歳	98	-0.208	.131
	75～84 歳	36	-0.473	.002
	85 歳以上	2	0.705	.000
世帯構成	単身世帯	114	-0.165	.158
	夫婦世帯	141	0.177	.156
	核家族世帯	171	0.312	.000
	本人+親	15	0.295	.006
	本人+親+兄弟姉妹	9	-0.221	.095
	その他	50	0.060	.701

表 7 右の要因の効果の p 値から、第 2 因子「社会とのつながり重視」において、性別、年齢、世帯構成すべての要因によって影響があるといえそうである。性別では、男性に有意差があり、平均値が 0.181 と正の値であることから、社会とのつながり重視の度合いがややあることがうかがえる。年齢では、75～84 歳で有意差があるが、サンプル数が 36 と少ないことにより精度の低い結果が出てしまった可能性があり、年齢による影響があるとはいえないことになる。世帯構成では、核家族世帯に有意差があり、平均値が 0.312 と正の値であることから、社会とのつながり重視の度合いがややあることがうかがえる。

表 9 第 3 因子「地域とのつながり重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
F 値	p 値	R^2	変数名(要因)	F 値	p 値
1.930	.025	.049	性別	2.922	.088
			年齢	0.387	.910
			世帯構成	3.257	.007

表 10 第 3 因子「地域とのつながり重視」分散分析結果 世帯構成

	水準	n	平均値	p 値
世 帯 構 成	単身世帯	114	-0.306	.012
	夫婦世帯	141	0.025	.846
	核家族世帯	171	0.129	.145
	本人+親	15	-0.021	.848
	本人+親+兄弟姉妹	9	-0.493	.000
	その他	50	-0.094	.559

表 9 右の要因の効果の p 値から、第 3 因子「地域とのつながり重視」において、世帯構成によって影響があるといえそうである。有意差がみられたのは単身世帯で、平均値が-0.306と負の値であり、地域とのつながり重視の度合いがやや低いことがうかがえる。

4.2 転出者の価値観

4.2.1 因子分析による価値観のタイプ分け

転出者においても、転入者と同様の形式で因子分析を行い、価値観のタイプ分けをする。

表 11 因子分析の結果(転出者)

因子	設問	因子負荷量			共通性
		F1	F2	F3	
F1	心身ともにリラックスした生活を送る	.911	-.187	-.002	.671
	価格が品質に見合っているかよく検討して買う	.844	-.023	-.070	.633
	楽しいことには時間を費やす	.832	-.082	.045	.661
	用事は効率的にすませるようにしている	.813	.039	-.088	.623
	生活の中で「仕事」よりも「家庭生活」や「地域・個人の生活」を大事にしたい	.685	-.096	.166	.536
	自分らしさにこだわって商品を選ぶ	.675	.152	-.015	.580
	品質のよい商品やサービスに囲まれて暮らしたい	.632	.252	-.063	.582
	切りつめられるお金はできる限り切りつめたい	.621	.123	-.091	.418
	実際の生活で「仕事」よりも「家庭生活」や「地域・個人の生活」を大事にできている	.525	-.005	.245	.473
	住居を選ぶ際にリノベーション済みの戸建てやマンション、アパートへの抵抗はない	.383	.222	.057	.335
F2	他人からの評価を考えながら行動する方だ	-.125	.893	-.106	.587
	専門家や他の人の意見や提案にしたがって物事を決めることが多い	-.115	.882	-.029	.647
	質問や意見交換など対話のできる情報源が好きな方だ	-.007	.689	.158	.638
	人との交流を通じて自分のネットワークを充実するよう努めている	-.043	.669	.244	.681
	人生で成功を収めたい	.223	.565	-.089	.430
	広さや間取りを犠牲にしても住宅価格を重視したい	.112	.538	.006	.374
	仕事はなるべくテレワークで対応したい	.186	.420	-.052	.262
	最寄り駅からの近さや交通の便などの利便性より広さや間取りを重視したい	.247	.380	.110	.408
F3	地域イベントや地域コミュニティなどの地域活動は大事なことだと思う	.033	-.102	.936	.790
	地域の方との交流に積極的に関わっていききたい	-.116	.134	.874	.821
	自分の住んでいる地域がテレビなどで話題になっているとうれしくなる	.220	.131	.436	.470

表 12 因子間相関※

	F1	F2	F3
F1	1.000	.562	.551
F2	.562	1.000	.664
F3	.551	.664	1.000

各因子を形成する設問が転入者とほぼ同様の結果となったため、因子名も同様に第1因子(F1)を「スマートなライフスタイル重視」、第2因子(F2)を「社会とのつながり重視」、第3因子(F3)を「地域とのつながり重視」と呼称する。

4.2.2 多元配置分散分析の結果

分散分析においても、転入者と同様の形式で行う。なお、どの因子においても性別に有意差がある結果となったが、性別のうち「その他」のみに有意差がみられ、「その他」のサンプルが4と非常に少ないことから、精度の低い結果であるとみなし、性別は除外して分析結果を示す。

表13 第1因子「スマートなライフスタイル重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
<i>F</i> 値	<i>p</i> 値	<i>R</i> ²	変数名(要因)	<i>F</i> 値	<i>p</i> 値
6.995	.000	.032	年齢	6.412	.000
			世帯構成	2.849	.014

表14 第1因子「スマートなライフスタイル重視」分散分析結果 年齢(上)/世帯構成(下)

	水準	n	平均値	<i>p</i> 値
年齢	24 歳以下	26	-0.739	.000
	25～34 歳	185	-0.230	.010
	35～44 歳	419	-0.240	.000
	45～54 歳	662	-0.467	.000
	55～64 歳	877	-0.488	.000
	65～74 歳	604	-0.587	.000
	75～84 歳	211	-0.546	.000
	85 歳以上	16	-0.512	.000
世帯構成	単身世帯	656	-0.547	.000
	夫婦世帯	889	-0.409	.000
	核家族世帯	916	-0.427	.000
	本人+親	158	-0.540	.000
	本人+親+兄弟姉妹	83	-0.365	.000
	その他	298	-0.569	.000

第1因子「スマートなライフスタイル重視」において、年齢、世帯構成によって影響があるといえそうである。年齢では、全ての年齢に有意差があり(85歳以上はサンプル数が少ないため言及できない)、すべての年齢における平均値が負の値であることから、スマートなライフスタイル重視の度合いが低いことがうかがえる。世帯構成でも、全ての世帯構成に有意差があり、いずれも平均値が負の値であるため、スマートなライフスタイル重視の度合いが低いことがうかがえる。

表 15 第2因子「社会とのつながり重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
F値	p値	R ²	変数名(要因)	F値	p値
23.959	.000	.101	年齢	44.044	.000
			世帯構成	2.023	.072

表 16 第2因子「社会とのつながり重視」分散分析結果 年齢

	水準	n	平均値	p値
年齢	24歳以下	26	-0.030	.806
	25～34歳	185	0.287	.001
	35～44歳	419	0.053	.233
	45～54歳	662	-0.308	.000
	55～64歳	877	-0.511	.000
	65～74歳	604	-0.705	.000
	75～84歳	211	-0.796	.000
	85歳以上	16	-0.818	.000

第2因子「社会とのつながり重視」において、年齢によって影響があるといえそうである。年齢では、24歳以下、35～44歳、85歳以上以外で有意差があるが、25～34歳以外の平均値が負の値であり、社会とのつながり重視の度合いが低いことがうかがえる。

表 17 第3因子「地域とのつながり重視」分散分析結果 モデル適合(左)/要因の効果(右)

モデル適合			要因の効果		
F値	p値	R ²	変数名(要因)	F値	p値
6.934	.000	.031	年齢	10.033	.000
			世帯構成	5.906	.000

表 18 第 3 因子「地域とのつながり重視」分散分析結果 年齢(上)/世帯構成(下)

	水準	n	平均値	p 値
年 齢	24 歳以下	26	-0.166	.195
	25～34 歳	185	-0.055	.532
	35～44 歳	419	-0.151	.001
	45～54 歳	662	-0.403	.000
	55～64 歳	877	-0.513	.000
	65～74 歳	604	-0.508	.000
	75～84 歳	211	-0.355	.001
	85 歳以上	16	-0.412	.000
世 帯 構 成	単身世帯	656	-0.417	.000
	夫婦世帯	889	-0.281	.000
	核家族世帯	916	-0.180	.000
	本人+親	158	-0.424	.000
	本人+親+兄弟姉妹	83	-0.402	.000
	その他	298	-0.219	.009

第 3 因子「地域とのつながり重視」において、年齢、世帯構成によって影響があるといえそうである。年齢では、35 歳以上に有意差があり(85 歳以上を除く)、いずれも平均値が負の値であるため、地域とのつながり重視の度合いが低いことがうかがえる。世帯構成では、全ての世帯構成に有意差があり、いずれも平均値が負の値であるため、地域とのつながり重視の度合いが低いことがうかがえる。

4.3 小括

因子分析の結果において、転入者・転出者ともに同様の設問が各因子に集約されていたことは興味深い。また、表中では各設問を因子毎に因子負荷量順で並べていたが、その順序もほぼ同様であったことから、転入者と転出者の間で、この分析で提示した価値観において違いはほとんどないといえる。

分散分析の結果において、転入者では、世帯構成の中でも核家族世帯がスマートなライフスタイル重視(第 1 因子)、社会とのつながり重視(第 2 因子)において有意差があることを示しており、いずれも平均値が正の値であったことから、スマートなライフスタイル重視と社会とのつながり重視の度合いがややあることがうかがえる。また、第 3 因子においては、単

身世帯で有意差があることを示し、平均値が負の値であったことから、地域とのつながり重視の度合いがやや低いことがうかがえる。

転出者では、年齢がどの因子においても有意差があることを示していたが、具体的な年齢で特徴や傾向がみられるような結果ではなかった。世帯構成については、スマートなライフスタイル重視(第1因子)、地域とのつながり重視(第3因子)において有意差があることを示していたが、年齢と同様に具体的な世帯構成で違いはみられなかった。また、年齢・世帯構成いずれの分析結果においても平均値が負の値を示していたが、転出者がどの因子に対しても度合いが低いとは考えにくい。

モデルの適合度を示す値として R^2 値があるが、転入者・転出者いずれの分散分析の結果においても低い値のため、性別・年齢・世帯構成という要因をもって価値観への影響の有無を説明できたとはいえないということになる。要因が他にあることが考えられるが、価値観に関する設問含め今後の検討事項とする。

5. おわりに

本稿では、ウェブ調査の結果を元に住民の移動理由、世田谷区に対する満足感、住民の価値観を分析し、移動する人々の特徴を捉えることを試みた。まとめとして、住民の居住前段階における住居の選好は、勤務先や都心など主要目的地への交通の利便性が決定要因として最も大きく、居住後段階における定住・転出を決める要因として「物価」「家賃や住宅の価格」が主であることが考えられる。価値観について、今回の分析では属性による価値観の傾向や特徴を捉えきることはできなかった。

移動理由においては、転入転出で共通することが多かったため、「両者にほぼ違いはない」という結果が得られた。また、1位の選択肢が群を抜いて最多であるという結果が移動理由の大半でみられたが、これは設けられていた選択肢によるものなのか、もし回答方法が自由記述であれば、世田谷区ならではという理由があったのかどうか、あるとしたら何であったかを明らかにしたい。この点については、調査設計を見直す必要があるため、今後調査を実施する上での課題とする。

価値観の分析では、因子分析により転入者・転出者ともに同様のタイプ分けができたことは興味深かった。もし、世田谷区ではなく別のまちでの転入者・転出者だと結果が変わるのだろうか。そうであれば、居住地ごとで価値観のタイプが違う可能性に迫ることができ、住民を理解するための一助になる研究になると思われる。しかしながら、ウェブ調査の価値観に関する設問で、人の価値観を分析するには限界があるため、今後の調査で価値観を問う必要がある場合、どのような問いを設けるかは今後の課題とする。

分散分析においては、性別・年齢・世帯構成の要因ごとで有意差は見られたが、モデルとしては説明しきれるほどの結果が出なかった。また、有意差があることが見られた結果のう

ち、転出者においていずれも負の値であった理由は、本研究の段階では明らかにできなかった。要因に配置する属性や R^2 値が高くなる工夫については、今後の課題とする。

また、各分析作業をする上での問題点として、分析方法によってサンプル数が非常に少なくなってしまう点がある。年齢や世帯構成などの属性で分けた際に、各群のサンプル数に偏りがあるため、サンプル数が少ない群は分析から除外せざるを得なかった。転出者においてはサンプル数が 3000 あったため、分析作業にある程度耐えられていた。また、設問によっては選択肢が多すぎることで、その回答をしたサンプルの数が非常に少なくなってしまう、分析結果の精度が低下してしまうことが多々あった。ただ、回答者の本心になるべく近いものを回答してもらいたいという点は外せないため、今後の調査では選択肢を 10 以下にすることを目安としたい。しかしながら、選択肢が多くなるケースは当然ありうるため、その場合における分析方法について考えることも、今後の課題としたい。また、調査の最終的な有効回答数が最低 3000 となるような調査対象数にすることも考えられる。転出者を対象にした分析で、サンプル数が少なくなるという問題が起こることが少なかったため、この数がベンチマークになると考えた。調査の回答率、回答数の担保はどの調査においても深刻な課題であるため、合わせて考えていきたい。

[文献・出典]

石井俊全, 2020, 『統計学大百科事典 仕事で使う公式・定理・ルール 113』翔泳社

大石奈美・田中陽子, 2024, 「世田谷区の地域特性の析出 2023 世田谷区の人々の移動―世田谷区民はどこからきてどこへゆくのか―」『せたがや自治政策』16: 35-55

居住と地域社会に対する意識に関する Web 調査 調査報告書

栗原伸一, 2024, 『入門 統計学(第2版)―検定から多変量解析・実験計画法・ベイズ統計学まで―』オーム社.

清水裕士・村山綾・大坊郁夫, 2006, 「集団コミュニケーションにおける相互依存性の分析 (1) コミュニケーションデータへの階層的データ分析の適用電子情報通信学会技術研究報告」 106(146), 1-6.